

立正大学博物館年報

3

平成16 (2004) 年度

立正大学博物館

序

立正大学博物館の平成16（2004）年度の事業は、企画展として「南極、自然と人－南極観測の記録から－」、特別展として「釈迦の故郷」を開催し、あわせて仏教学部仏教文化コース「卒業制作展－仏教資料の「存在」に遭う－」が当館を会場として催された。同時にそれぞれの展観の記念講演がもたれた。

企画展・特別展の開催にあたっては、国立極地研究所、(財)日本極地研究振興会及び(財)全日本仏教会の後援を頂くことができた。一私立大学付置の博物館の小規模な催しの開催にあたって、当該分野で定評ある機関と団体の後援をえて実施されたことは関係各位のご好意のあらわれとして感謝している。

常設展示も前年度に引続き内・外の多くの人びとに親しまれ、当館所蔵資料が広く社会にも膾炙されつつあることは欣快にたえない。

今後とも当館設立の意図を充分に発揮できるように努力を重ねていきたいと思う。識者の理解あるご協力を願って止まない。

平成17(2005)年1月

館長 坂 詰 秀 一

序

I. 博物館の概要…………… (2)

- (1) 組織と職員
- (2) 立正大学組織表
- (3) 立正大学博物館規定
- (4) 立正大学博物館細則
- (5) 施設
- (6) その他

II. 事業報告…………… (13)

- (1) 運営委員会
- (2) 平成15年度収支報告
- (3) 開館日数・入館者数
- (4) 出版
- (5) 展示
 - 1. 常設 2. 企画展示 3. 特別展示

(6) 講演会等

(7) 教育 普及

(8) 資料活用

III. 日 誌 (抄) …………… (20)

IV. 寄贈図書目録…………… (27)

V. 資 料…………… (30)

- (1) 第2回 企画展（「南極、自然と人」－南極観測の記録から－）解説目録
- (2) 第2回 特別展（「釈迦の故郷」）解説目録

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長	坂詰秀一
専門職員	上野恵司
事務員	田村佳道

第4号委員 佐美光彦委員逝去に伴う後任委員として

池田宗彰 (経済研究所長)

三友量順 (環境科学研究所長)

b. 運営委員

第1号委員 坂詰秀一 (博物館長)

第2号委員 上野恵司 (専門職員)

第3号委員 坂本 仁 (法学部長)

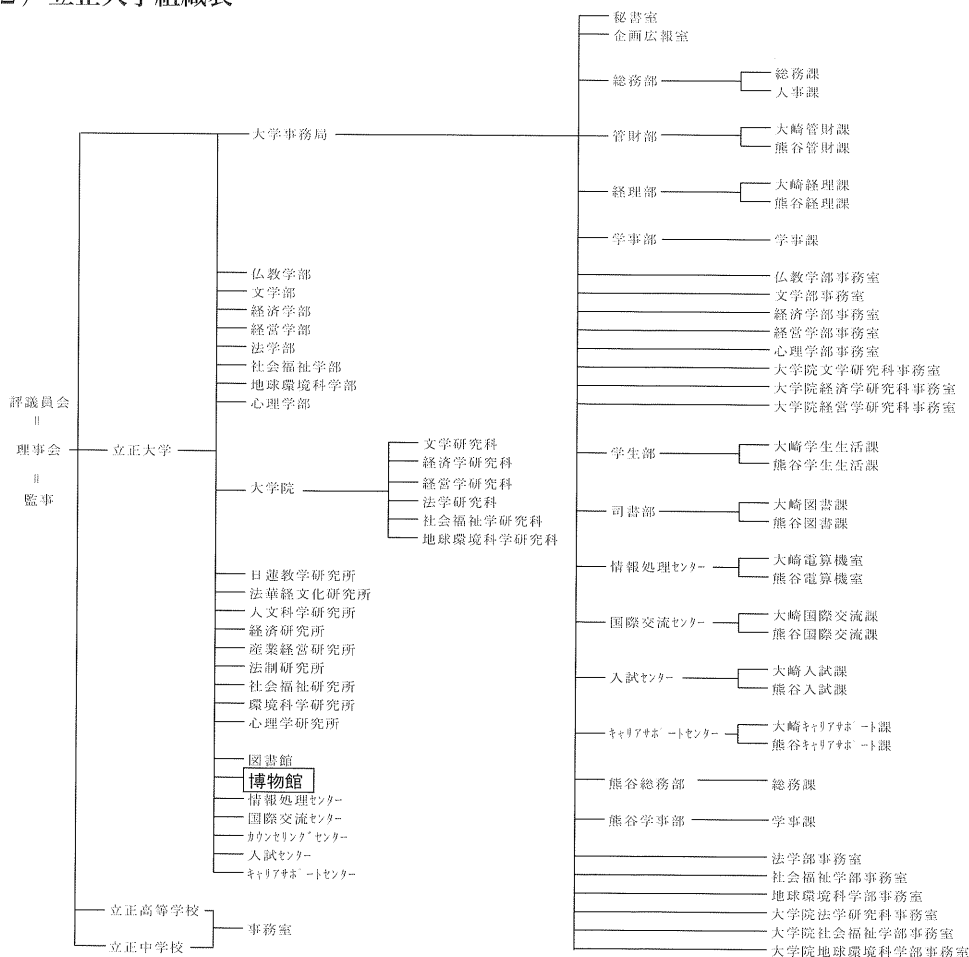
澤田裕之 (社会福祉学部長)

第5号委員 坂輪宣敬 (博物館関係学識経験者)

第6号委員 野沢佳美 (文化史関係学識経験者)

第7号委員 菊地隆男 (自然誌関係学識経験者)

(2) 立正大学組織表



(3) 立正大学博物館規定

(設定)

- 第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という)を置く。

(目的)

- 第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という)を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

- 第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。
- 一 資料等の収集、整理および保管
 - 二 資料等の展示および公開
 - 三 調査研究活動
 - 四 調査研究成果の発表および出版
 - 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
 - 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
 - 七 その他必要な事業

(職員)

- 第4条 博物館に次の職員を置く。
- 一 館長
 - 二 専門職員

(館長)

- 第5条 博物館に館長を置く。
- 2 館長は博物館を代表し、博物館の教務を総括する。
 - 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
 - 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

い。

- 5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

- 第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。
- 2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

- 第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会・構成)

- 第8条 委員会は、次の者を以って構成し、学長が委嘱する。
- 一 館長
 - 二 専門委員
 - 三 学部長から2名
 - 四 研究所長から2名
 - 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
 - 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
 - 七 自然誌関係学識経験者から1名
- 2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。
 - 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

- 第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- 一 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- 二 博物館の管理運営に関する事項
- 三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

- 2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式2）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。
- 3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - 一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。
 - 二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。
 - 三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。
 - 四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書(様式2)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会(以下「委員会」という)の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。
 - 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

- 第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。
- 2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利

用料金を全額免除することができる。

- 一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業
 - 二 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業
 - 三 学術研究
 - 四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき
- 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

- 第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 2 館長は前項の貸出許可申請書(様式4)の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書(様式4)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。
 - 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
 - 4 本条第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

- 第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担する

ものとする。

- 2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項一号、二号および四号のいずれかに該当する場合は、貸出料金を全額免除する。
- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

- 第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書(様式5)寄託申込書(様式6)に記入のうえ、館長に提出するものとする。
- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、

学長に意見書を提出しなければならない。

- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証(様式7)・受託証(様式8)を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

(附則)

- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
- 3 この細則は平成15年4月1日から施行する。

様式1

受付番号

立正大学博物館資料
館内利用許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をしますので申請します。

記

利 用 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日（ ）から 年 月 日（ ）まで			
利 用 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式2

第 号

立正大学博物館資料
館内利用許可書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。

記

利 用 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日（ ）から 年 月 日（ ）まで			
利 用 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。

様式3

受付番号

立正大学博物館資料
館外貸出許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

様式4

第 号

立正大学博物館資料
館外貸出許可書

年 月 日

様
立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを許可します。

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

記

利 用 目 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

利 用 目 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

受付番号

受付番号

博物館資料寄贈申請書

博物館資料寄託申請書

年 月 日

年 月 日

立正大学博物館長 様

立正大学博物館長 様

申請者 住所
氏名
電話

申請者 住所
氏名
電話

印

印

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

記

記

資 料 名	数 量	備 考

寄 託 期 間	年 月 日 () から			年 月 日 () ま で		
	資 料 名	数 量	備 考			
寄 託 資 料						

様式7

様式8

第 号

第 号

博物館資料受領証

博物館資料受託証

年 月 日

年 月 日

様

様

立正大学博物館長 印

立正大学博物館長 印

下記のとおり博物館資料として受領しました。

下記のとおり博物館資料として受託しました。

記

記

資 料 名	数 量	備 考

受 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで	資 料 名	数 量	備 考
受 託 資 料					

博物館資料借用書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

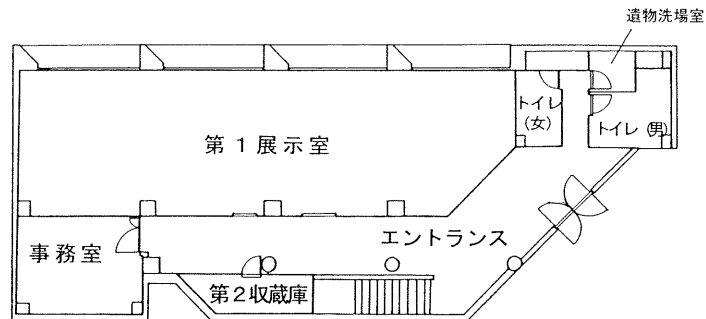
下記のとおり博物館資料として借用しました。

記

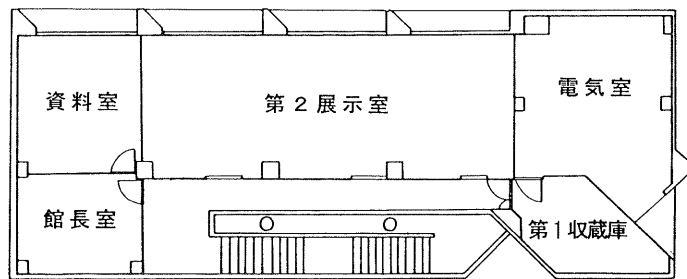
使用期間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
借用理由				
借用資料	資料名	数量	備考	
取扱担当者				

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5) 施設



博物館 1階 平面図



博物館 2階 平面図

(S=1/200)

● 建物

所 在・・・埼玉県熊谷市万吉1700
 建築面積・・・376.8㎡
 構 造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

● 各室面積一覧

(1階)

第1展示室・・・93.88㎡
 事務室・・・17.10㎡
 第2収蔵庫・・・3.22㎡
 トイレ・・・11.01㎡
 遺物洗場室・・・2.26㎡

エントランス・・・45.64㎡

(2階)

第2展示室・・・71.22㎡
 館長室・・・16.98㎡
 資料室・・・23.89㎡
 第1収蔵庫・・・12.30㎡
 電気室・・・39.00㎡

● 各室仕様

(第1展示室・事務室)

床・・・タイルカーペット敷
 壁・・・ビニールクロス貼り
 天井・・・ミネラートン

(第2展示室)

床・・・タイルカーペット敷
 壁・・・ビニールクロス貼り
 天井・・・ミネラートン

(館長室・資料室)

床・・・タイルカーペット敷
 壁・・・ビニールクロス貼り
 天井・・・ジブトーン

● 電気設備

受電設備・・・6.6KV
 変圧器設備・・・電灯100KVA
 動力80KVA
 照明設備・・・展示室ハロゲンランプ使用。
 館長室・事務室・

資料室一蛍光灯使用。

● 防犯・防災設備

防犯設備・・・各室、熱線センサー取付、
 非常通報設備。
 I T V 設備・・・CCDカメラ4台、
 展示室等監視。
 自動火災報知設備・・・P型1級5回線
 消火設備・・・粉末消火器9台

● 空調設備

空調機・・・空冷式、
 パッケージエアコン(個別)

● 給排水設備

給水設備・・・市水道使用
 給湯設備・・・貯湯式電気湯沸器

● 付設

第3収蔵庫・・・79.32㎡
 臨時収蔵庫・・・94.50㎡

Ⅱ. 事業報告

(1) 運営委員会

・第1回 博物館運営委員会

日 時 平成16年7月12日(月)

15:00 ～ 16:05

会 場 大崎校舎 第2会議室(1号館2階)

出席委員

坂詰秀一・坂本 仁・澤田裕之・坂輪宣教・
三友量順・野沢佳美・上野恵司・田村佳道(事務局囑託)

本日の出席者は7名、欠席者2名の報告があり、博物館規定第10条の2項により成立。

議 事

I. 報告事項

- 1, 平成16・17年度、博物館運営委員会
- 2, 平成15年度事業報告
- 3, 吉田榮夫先生寄贈資料
- 4, 所蔵資料館外貸出
- 5, 館務実習受け入れについて
- 6, その他

Ⅱ. 審議事項

- 1, 平成16年度事業計画(案)・予算について
- 2, その他

(2) 平成16年度収支計報告

平成 16 年度 決算報告

予 算 科 目		16 年度当 初予算	16 年度 補正額	16 度補正 後予算	決 算	増 減
目的及び大科目	小(細)科目					
人 件 費		587,000	416,000	1,003,000	1,002,711	289
	教員人件費	11,000	0	11,000	11,111	-111
	その他の手当て (教・本)	11,000	0	11,000	11,111	-111
	職員人件費	576,000	416,000	992,000	991,600	400
	雑給(職・兼)	576,000	416,000	992,000	991,600	400
教育研究経費		2,995,000	20,000	3,015,000	2,993,827	21,173
	会議会合費	100,000	0	100,000	97,565	2,435
	旅費交通費	220,000	0	220,000	222,160	-2,160
	その他の旅費交通費	220,000	0	220,000	222,160	-2,160
	通信運搬費	220,000	0	220,000	196,370	23,630
	電 話 料	120,000	0	120,000	96,740	23,260
	その他の通信運搬費	100,000	0	100,000	99,630	370
	消耗品費	350,000	39,000	389,000	380,176	8,824
	印刷製本費	1,760,000	180,000	1,940,000	1,944,848	-4,848
	コピー料	360,000	0	360,000	375,098	-15,098
	その他の印刷製本費	1,400,000	180,000	1,580,000	1,569,750	10,250
	諸 会 費	25,000	0	25,000	10,000	15,000
	図書資料費	100,000	-50,000	50,000	44,620	5,380
	手数料報酬	200,000	139,000	61,000	88,888	-27,888
	雑 費	20,000	-10,000	10,000	9,200	800
合 計		3,582,000	436,000	4,018,000	3,996,538	21,462

(3) 開館日数・入館者数

平成16年4月1日から平成17年3月31日の間で、博物館は192日開館した。本来大学休業日である夏・春期休暇中は開館していないが、外部からの要望もあり出来る限り開館に努めた。

入館者数は、4月が計538人、5月が計456人、6月が計208人、7月が計538人、8月が計3人、9月が計342人、10月が計327人、11月が計630

人、12月が計491人、1月が計32人、2月が計27人、3月が計33人、合計3,625人であった。

その内訳は、表1が示すように、小・中・高校生が計499人、一般が計1,134人、本学学生が計1,228人、本学教職員が計24人、オープンキャンパスが計740人であった。

(4) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・ 第2回企画展図録

『南極、自然と人―南極観測の記録から―』

- ・ 第2回特別展図録

『釈迦の故郷』

- ・ 立正大学仏教学部卒業制作展『仏教美術の「存在」に遭う』

- ・ 立正大学博物館報『万吉だより』第3号



平成16年度・出版物

(5) 展 示

1. 常 設

—第1展示室—

①撫石庵コレクション

眞鍋孝志氏（古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とするコレクションである。

日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具（鐘・鐸）のほか、金銅釈迦如来立像などが含まれている。

アジア梵音具の資料として稀有のコレクションであり、中国の甬鐘、伝タイの銅鼓をも加えての資料は注目される。

とくに、伝樞原市出土の平安時代前期の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、きわめて貴重な資料である。

②旧石器時代～古墳時代

旧石器時代～古墳時代にわたる資料。

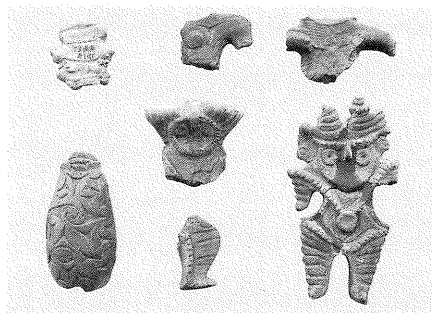
旧石器時代では、日本の旧石器時代の代表的遺跡として知られる北海道白滝遺跡の出土品と本学が発掘した北海道報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品などがある。とくに朝日遺跡は、獅子文六『箱根山』に登場する遺跡として有名であるが、神奈川県下で最初に発掘された旧石器時代の遺跡としても知られている。

縄文時代では、埼玉県石神貝塚、千葉県築地台貝塚の出土品などがあり、縄文時代後～晩期の貝塚群の一括資料として知られている。

弥生時代では、東京都久ヶ原出土の弥生式土器がある。弥生時代後期の集落跡として著名な遺跡から昭和10年代に出土したものとして古くから考古学界に知られている。

古墳時代の資料として、埼玉県野原古墳群の発掘調査資料である耳飾、直刀、鉄鏃、須恵器などを展示している。

ほかに、弥生時代の伝福岡県須玖出土の銅戈、昭和の初頭の寄贈品の鏡（位至三公鏡）などが展示されている。

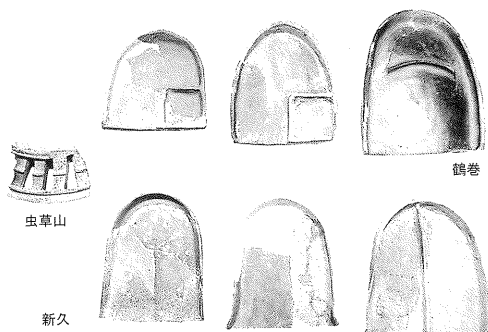


石神貝塚（埼玉県）、土版・土偶

③古代窯跡発掘の須恵器・瓦塼・硯・瓦塔

1958年～1980年にかけて立正大学考古学研究室が、文部省の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料である。

青森県に存在する北限の五所川原〔前田野目〕窯跡、出羽（山形県）の荒沢・町沢田窯跡、上野（群馬県）の金山瓦窯跡・上小友窯跡、信濃（長野県）の宮洞・若宮・御牧ノ上・八重原窯跡、武蔵（埼玉県）の亀ノ原・新沼・山田・宮ノ前・虫草山・東金子などの窯跡、備後（広島県）の青水窯跡、筑前（福岡県）の平田窯跡などからの出土品で、いずれも古代生産の実態、土器の編年、瓦塼の供給問題についての貴重な資料として知られている。



碗（埼玉県出土）

④古代～近世

古代～近世にかけての資料。

古代では、千葉県九十九坊廃寺・同長熊廃寺跡の出土品がある。とくに、長熊廃寺跡は、本学が1951年から'53年にかけて発掘した遺跡として知られている。土師器の火葬骨蔵器は、主として神奈川県下の出土品。

中世では、板碑・骨蔵器、近世では、東京都増上寺徳川將軍家関係墳墓出土の一字一石経などが展示されている。

⑤熊谷キャンパス内出土資料

熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法（文化財保護法）によって定められた遺跡の発掘調査を実施しているが、その折、貴重な資料が出土している。

とくに旧石器時代後期の石器群、縄文時代早期の土器群の出土は、埼玉県内の旧石器文化の様相、土器文化の起源を探るうえできわめて貴重な資料として注目されている。また、古墳時代後期～平安時代にかけての集落跡、江戸時代の遺跡も発掘され、教育の場、研究資料としても活用されている。

調査を担当している立正大学熊谷校地遺跡調査室は、他大学に先がけて設置された調査機関

であり、国立・私立大学の先駆的事例として諸大学の参考となっている。

－第2展示室－

⑥樺太出土資料

久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈の樺太出土資料（土器・石器・骨角器）は、同氏が1930年代に樺太の地を調査した際に出土したものである。

樺太出土の資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。



骨角器

⑦吉田 格コレクション

吉田 格氏（立正大学専門部地歴科・昭和16（1941）年卒）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文時代研究の学者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式、後期の称名寺式は氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

関東地方でもっとも早く発掘された旧石器時代後期の遺跡（熊ノ郷・殿ヶ谷戸・西之台Bなど）、縄文時代各時期の遺跡群からの出土資料、とくに早期の花輪台式・子母口式、後期の称名寺式・堀之内式、晩期の安行各式土器は、多数の土製耳飾りおよび諸貝塚出土の骨角製品とともに広く知られている。とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）

は縄文時代の研究上、きわめて重要な資料である。

本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9（1876）年に収められているものであり、嘉永5（1852）年の箱書きを持つ収蔵箱に収められている石器とともに、きわめて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。



称名寺B貝塚（神奈川県）、称名寺Ⅱ式土器

⑧ネパール・ティラウラコット出土資料群

1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、その中の2つを発掘して得られた資料である。

2. 企画展示

◆第2回企画展

「南極自然と人ー南極観測の記録からー」

- ・ 期間：平成16年4月12日（月）～5月11日（火）
- ・ 記念講演会：5月8日（土） 13:00～15:00
- ・ 協力：国立極地研究所・（財）日本極地研究振興会

・ 第2回企画展として、吉田榮夫先生（前学長・国立極地研究所名誉教授）が半生を注がれた南極について、国立極地研究所・（財）日本極地研究振興会の協力の下に写真や隕石、鉱物などを中心に紹介しました。

◆立正大学仏教学部卒業制作展

「第1回卒業制作展ー仏教美術の「存在」に遭うー」

- ・ 期間：平成16年12月6日（月）～12月18日（土）
- ・ 記念講演会：12月11日（土） 13:00～14:30

・ ミニ企画展として、立正大学仏教学部の仏教学科仏教文化コースに平成10年度より制度化された「卒業制作」で作成された作品を展示しました。

3. 特 別 展 示

◆第2回特別展

「釈迦の故郷」

- ・ 期間：平成16年10月25日(月)～11月27日(土)
- ・ 記念講演会：11月13日(土) 13:30～15:00
- ・ 後援：(財) 全日本仏教会

・ 第2回特別展では、立正大学が1967年から10年間、発掘調査を実施したティラウラコット遺跡の紹介を中心に釈迦の故郷について紹介しました。また(財)全日本仏教会の後援を得て、ルンビニー遺跡発掘の経過と成果を写真により展観しました。

(6) 講 演 会 等

◆第2回 企画展記念講演会

期日：平成16年5月8日(土)

会場：立正大学熊谷校舎1号館 1107教室

時間：13:00～15:00

演題「南極に魅せられて半世紀」

吉田榮夫(前立正大学学長・国立極地研究所名誉教授)

◆第2回 特別展記念講演会

期日：平成16年11月13日(土)

会場：立正大学熊谷校舎1号館 1107教室

時間：13:30～15:00

演題「釈迦の遺跡を掘る〈カピラヴァストゥとルンビニー〉」

坂浩秀一(立正大学博物館館長・元立正大学長)

◆立正大学仏教学部 卒業制作展

期日：平成16年12月11日(土)

会場：立正大学熊谷校舎1号館 1107教室

時間：13:00～14:30

演題「仏教学部における実習授業と卒業制作の取り組み」

秋田貴廣(立正大学仏教学部助教授)

(7) 教育 普及

平成16年8月5日(木)から11日(水)の7日間、立正大学生の館務実習を立正大学博物館で実施した。

(実習内容)

8月5日(木)

- ・ 午前の部
 - 館長挨拶
 - 館務実習の説明
 - 館の概要説明
 - 館内施設の見学
- ・ 午後の部
 - 資料の取り扱い (1)
 - パソコンの活用

8月6日(金)

- ・ 午前の部
 - 資料の取り扱い (2)
 - 収蔵資料の分類
- ・ 午後の部
 - 資料の取り扱い (3)
 - 収蔵資料の移動

8月7日(土)

- ・ 午前の部
 - 考古学資料の取り扱い (1)
 - 洗浄
- ・ 午後の部
 - 考古学資料の取り扱い (2)
 - 注記

8月8日(日)

- ・ 午前の部
 - 考古学資料の取り扱い (3)
 - 接合
- ・ 午後の部
 - 考古学資料の取り扱い (4)
 - 復元

8月9日(月)

- ・ 午前の部
 - 講話「石造物の取り扱い」
(講師 持田友宏先生)
- ・ 午後の部
 - 考古学資料の取り扱い (5)
 - 拓本

8月10日(火)

- ・ 午前の部
 - 自然史関係実習 (1)
(講師 島津 弘先生)
- ・ 午後の部
 - 自然史関係実習 (1)
(講師 島津 弘先生)

8月11日(水)

- ・ 午前の部
 - 資料の取り扱い (1)
 - 資料カードの作成
- ・ 午後の部
 - 意見交換会
 - 実習に参加して
- ・ 終了式



実習参加者
前列2人目 上野恵司講師

(8) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

- ・ 7月13日～8月29日 東北歴史資料館
須恵器11点(五所川原窯跡群-砂田窯跡・持子沢窯跡-出土)
- ・ 9月13日～12月3日
独立行政法人 奈良文化財研究所飛鳥資料館
梵鐘1点(伝橿原市出土)

- ・ 10月8日～12月22日 品川歴史館
文字瓦1点(新久窯跡出土)
- ・ 12月6日～1月31日 さいたま市立博物館
縄文土器片29点(花輪台貝塚第4・5号住居跡出土)

III. 日誌(抄)

—平成16年度—

<4月>

- ・ 1日(木) 大学入学式
坂詰館長・上野専門委員・田村総務部嘱託及び学生アルバイト出勤。今後の開館日程等打ち合わせ。新入生の父母他、来館者数77名
- ・ 2日(金)
学生19名 博物館相当施設として3月30日付認可の連絡を受理。
- ・ 5日(月)
学生15名・一般4名
- ・ 7日(水)
学生3名・一般1名 第2回企画展「南極、自然と人」準備
- ・ 8日(木)
学生1名
- ・ 9日(金)
学生3名
- ・ 10日(土)
学生4名
- ・ 12日(月)
第2回企画展「南極、自然と人」-南極観測の記録から-開催初日。学生67名・一般11名
インバーカーギル市(ニュージーランド)交換留学生来館

- ・ 14日(水)
学生22名
- ・ 15日(木)
学生174名
- ・ 16日(金)
学生28名
- ・ 17日(土)
開館日
- ・ 19日(月)
学生18名・教員2名・一般1名
- ・ 21日(水)
学生45名・一般8名
- ・ 22日(木)
学生15名・一般3名
- ・ 23日(金)
開館日
- ・ 24日(土)
学生3名
- ・ 26日(月)
学生11名
- ・ 28日(水)
学生3名

<5月>

- ・ 6日(木)

- 学生 2 名
- ・ 7 日 (金)
- 学生 4 名
- ・ 8 日 (土)
- 第 2 回企画展記念講演会「南極に魅せられて半世紀」講師 吉田榮夫氏 (前立正大学学長)
- 学生・一般171名
- ・ 10 日 (月)
- 学生 3 名・一般 2 名
- ・ 11 日 (火)
- 学生 7 名・一般 5 名。第 2 回企画展「南極、自然と人」最終日。学生 3 名・教職員 1 名・一般 8 名
- ・ 12 日 (水)
- 学生 2 名・一般 1 名
- ・ 13 日 (木)
- 学生 2 名
- ・ 14 日 (金)
- 学生 4 名
- ・ 15 日 (土)
- 開館日
- ・ 17 日 (月)
- 学生173名・教員 1 名
- ・ 19 日 (水)
- 学生 2 名・一般 2 名 (東北歴史博物館)
- ・ 20 日 (木)
- 学生 2 名・教員 2 名
- ・ 21 日 (金)
- 学生 2 名
- ・ 22 日 (土)
- 一般 2 名
- ・ 24 日 (月)
- 学生 6 名・一般 1 名
- ・ 26 日 (水)
- 学生 4 名・一般 7 名
- ・ 27 日 (木)
- 学生 1 名

- ・ 28 日 (金)
- 学生 1 名
- ・ 29 日 (土)
- 学生 2 名・一般 1 名
- ・ 31 日 (月)
- 学生 5 名・一般27名 (サザンメイン大学交換留学生 4 名含む)

< 6 月 >

- ・ 2 日 (水)
- 一般11名 (フレネ自由教育フリースクール・ジャパンフレネ熊谷吉田香織他)
- ・ 3 日 (木)
- 一般18名 (県立児玉高校15名含む)
- ・ 4 日 (金)
- 一般 1 名
- ・ 5 日 (土)
- 学生 1 名
- ・ 7 日 (月)
- 学生 3 名・一般 2 名
- ・ 9 日 (水)
- 一般 1 名
- ・ 10 日 (木)
- 学生 3 名
- ・ 11 日 (金)
- 学生 4 名
- ・ 14 日 (月)
- 学生 1 名
- ・ 16 日 (水)
- 学生 1 名・一般 2 名
- ・ 17 日 (木)
- 学生 1 名・一般 1 名
- ・ 18 日 (金)
- 学生 3 名・一般 2 名
- ・ 19 日 (土)
- 一般 3 名
- ・ 20 日 (日)

- 臨時開館（橘父兄会地方懇談会）一般40名
- ・ 21日（月）
学生16名
- ・ 22日（火）
臨時開館一般36名（県立深谷高校36名）
- ・ 23日（水）
学生2名・県立川本高校43名・一般1名
- ・ 24日（木）
学生2名
- ・ 25日（金）
学生4名
- ・ 26日（土）
一般2名
- ・ 28日（月）
学生1名
- ・ 29日（火）
一般1名（東北歴史博物館）
- ・ 30日（水）
学生2名

< 7月 >

- ・ 1日（木）
群馬県伊勢崎女子高校父母30名
- ・ 2日（金）
学生3名
- ・ 3日（土）
開館日
- ・ 5日（月）
学生2名・県立与野高校父母41名
- ・ 7日（水）
開館日
- ・ 8日（木）
学生1名
- ・ 9日（金）
開館日
- ・ 10日（土）
一般2名

- ・ 12日（月）
平成16年度第1回博物館運営委員会（大崎）
につき臨時閉館
- ・ 14日（水）
学生2名・職員1名
- ・ 15日（木）
学生4名
- ・ 16日（金）
開館日
- ・ 17日（土）
開館日
- ・ 21日（水）
学生2名・一般2名
- ・ 22日（木）
東京成徳大学附属深谷高校生徒16名
- ・ 23日（金）
館林商工高校28名
- ・ 24日（土）
開館日
- ・ 26日（月）
一般1名
- ・ 28日（水）
一般1名
- ・ 29日（木）
一般1名
- ・ 30日（金）
学生1名
- ・ 31日（土）
オープンキャンパス400名

< 8月 >

- ・ 5日（木）
館務実習第1日目 一般1名（群馬県埋蔵文化財センター）
- ・ 6日（金）
” 2日目 一般2名
- ・ 7日（土）

- ” 3日目
- ・ 8日(日)
- ” 4日目
- ・ 9日(月)
- ” 5日目 (講演会)
- ・ 10日(火)
- ” 6日目 (自然史関係実習)
- ・ 11日(水)
- ” 7日目

< 9月 >

- ・ 9日(木)
東北歴史博物館 貸出返却受理 一般3名
- ・ 13日(月)
開館日
- ・ 22日(火)
一般3名
- ・ 24日(金)
一般1名
- ・ 25日(土)
クラブツーリズム一行30名
- ・ 26日(日)
オープンキャンパス300名
- ・ 27日(月)
学生1名・一般2名
- ・ 29日(水)
一般2名
- ・ 30日(木)
開館日

< 10月 >

- ・ 1日(金)
開館日
- ・ 2日(土)
一般1名
- ・ 4日(月)
教員1名

- ・ 7日(木)
鴻巣高校45名・学生2名
- ・ 8日(金)
開館日
- ・ 9日(土)
開館日
- ・ 13日(水)
学生1名・一般1名
- ・ 14日(木)
学生2名・一般1名
- ・ 15日(金)
吉井高校45名・足利南高校4名・学生4名
- ・ 16日(土)
一般2名
- ・ 18日(月)
学生140名・一般2名
- ・ 20日(水)
開館日
- ・ 21日(木)
一般2名
- ・ 22日(金)
一般1名・学生4名
- ・ 25日(月)
教員4名・学生4名・一般6名 第2回特別
展「釈迦の故郷」開催初日
- ・ 27日(水)
学生25名・一般6名
- ・ 28日(木)
教員3名・一般21名

< 11月 >

- ・ 4日(木)
学生4名
- ・ 8日(月)
一般6名
- ・ 10日(水)
学生5名・一般4名

- ・ 11日 (木)
職員 1 名・一般43名 (茨城県総和高校41名＋2名)
- ・ 12日 (金)
職員 1 名・一般 2 名・学生 1 名
- ・ 13日 (土)
第 2 回特別展「釈迦の故郷」記念講演会 講師 坂詰秀一氏 (立正大学博物館館長) 一般228名
- ・ 15日 (月)
学生 4 名・一般 2 名
- ・ 16日 (火)
一般55名 (群馬県西邑楽高校55名)
- ・ 17日 (水)
学生 3 名・一般 1 名
- ・ 18日 (木)
教員 1 名・学生 3 名・一般 2 名
- ・ 19日 (金)
一般20名 (本庄第一高校生17名含む)
- ・ 20日 (土)
一般12名
- ・ 22日 (月)
教員 1 名・学生30名
- ・ 24日 (水)
学生 3 名・一般37名 (行田進修館高校生34名)
- ・ 25日 (木)
学生 3 名・一般11名
- ・ 26日 (金)
学生77名・一般 5 名
- ・ 27日 (土)
学生 2 名・一般 4 名 第 2 回特別展「釈迦の故郷」最終日
- ・ 29日 (月)
学生 1 名・一般 3 名
- ・ 30日 (火)
熊谷市政モニター一行18名

<12月>

- ・ 1 日 (水)
開館日
- ・ 2日 (木)
一般 2 名 (埼玉学園大学生)
- ・ 3 日 (金)
学生 8 名
- ・ 4 日 (土)
開館日
- ・ 6 日 (月)
教員 1 名・学生18名 仏教学部第 1 回「卒業制作展」開催初日
- ・ 7 日 (火)
臨時開館 一般130名 (彩の国いきがい大学熊谷学園)
- ・ 8 日 (水)
職員 1 名・学生 2 名・一般 1 名
- ・ 9 日 (木)
学生107名・一般30名 (県立北本高校保護者30名)
- ・ 10日 (金)
学生 5 名・一般 4 名
- ・ 11日 (土)
学生 3 名・一般47名 卒業制作展講演会
- ・ 13日 (月)
教職員 3 名・学生 2 名・一般 1 名
- ・ 14日 (火)
臨時開館一般26名 (熊谷市学校長会一行)
- ・ 15日 (水)
学生30名・一般 5 名
- ・ 16日 (木)
学生 2 名 仏教学部第 1 回「卒業制作展」最終日
- ・ 17日 (金)
学生 2 名・一般 3 名
- ・ 18日 (土)
学生 3 名・一般 4 名

- ・ 20日 (月)
開館日
- ・ 21日 (火)
臨時開館 一般51名 (川口総合高校22名・北部地区教育長会議29名)
- ・ 22日 (水)
開館日
- ・ 24日 (木)
開館日
- < 1 月 >
- ・ 12日 (水)
学生 1 名・一般 2 名
- ・ 13日 (木)
一般 2 名
- ・ 14日 (金)
開館日
- ・ 15日 (土)
開館日
- ・ 17日 (月)
学生 2 名・一般 1 名
- ・ 19日 (水)
開館日
- ・ 20日 (木)
学生 2 名・一般16 名 (県立蓮田高校生16名)
- ・ 21日 (金)
開館日
- ・ 22日 (土)
開館日
- ・ 24日 (月)
開館日
- ・ 26日 (水)
一般 1 名
- ・ 27日 (木)
一般 1 名
- ・ 28日 (金)
一般 2 名
- ・ 29日 (土)
学生 1 名
- ・ 31日 (月)
学生 1 名
- < 2 月 >
- ・ 2日 (水)
開館日
- ・ 3日 (木)
開館日
- ・ 4日 (金)
開館日
- ・ 5日 (土)
開館日
- ・ 7日 (月)
学生 1 名
- ・ 9日 (水)
開館日
- ・ 10日 (木)
一般 3 名
- ・ 12日 (土)
一般 1 名
- ・ 14日 (月)
学生 1 名
- ・ 16日 (水)
開館日
- ・ 17日 (木)
一般20名 (熊谷市立女子高校生)
- ・ 18日 (金)
開館日
- ・ 19日 (土)
開館日
- ・ 21日 (月)
開館日
- ・ 23日 (水)
開館日
- ・ 24日 (木)

一般1名
・25日(金)
開館日
・26日(土)
開館日
・28日(月)
開館日

<3月>

・2日(水)
学生1名
・3日(木)
開館日

・7日(月)
開館日
・9日(水)
一般1名
・10日(木)
開館日 3月11日(金)～3月31日(木) 閉館
・14日(月)
・16日(水)
一般7名(高校生7名)
・17日(木)
・24日(木)
一般21名(新潟県十日町高校生17名含む)
・30日(水)
学生2名・一般1名

IV. 寄贈図書目録 (2003. 4 ~ 2004. 3)

< 福島県 >

福島県文化財センター白河館

- ・まほろん通信 VOL. 14~15

< 栃木県 >

栃木県立那須風土記の丘資料館

- ・第12回企画展 水戸光圀公の考古学 日本の考古学那須に始まる
- ・第18回企画展 律令国家の展開—9世紀前後における下野国—

< 埼玉県 >

朝霞市博物館

- ・古のひくら〜朝霞市・新座市・志木市・和光市出土品展〜

入間市博物館

- ・入間市博物館開館10周年記念誌
- ・NEWS-ALIT 第29号
- ・入間川再発見! 一身近な川の自然・歴史・文化をさぐって—

大井町立歴史資料館

- ・平成16年度特別展 武蔵野今昔 武蔵野の景観と大井町

上福岡市立歴史民俗資料館

- ・資料館通信 第57号
- ・第19回特別展 新河岸川舟運の川船とその周辺

川越市立博物館

- ・博物館だより 第43号

行田市郷土博物館

- ・市制55周年記念・第18回企画展 幕末の忍藩
- ・日本の郷土玩具〜藤間コレクション〜

さいたま川の博物館

- ・かわはく 第21号

埼玉県立博物館

- ・平成17年度特別展 羽子板の美とわざ

埼玉県立自然史博物館

- ・「水辺の昆虫—トンボ—」
- ・自然史だより 第55号
- ・埼玉県立自然史博物館報 第17号

さいたま市立博物館

- ・第1集 収蔵品図録
- ・大宮市立博物館研究紀要 第1~3, 5, 7号
- ・大宮の教育史調査報告書(IV) 文書・絵馬・石造物に見る近世大宮の生活・文化・教育
- ・第12回企画展 昔の人のリサイクル 暮らしの中に生まれた知恵
- ・第9回企画展 文明開化のボンボン わが家の掛時計
- ・第24回特別展 文明開化の意匠〜陸蒸気がやってきた〜
- ・第13回企画展 火消刺子刺に見る江戸の粋
- ・第18回特別展 利家具筆筍と小箱用と美
- ・第6回企画展 チョモランマ登頂展
- ・第7回企画展 地図・絵図でみる大宮の移り変わり
- ・第10回企画展 備える・蓄える
- ・第21回特別展 縄文人の顔〜土偶・土面から見た素顔〜
- ・第13回特別展 寿能城と戦国時代の大宮
- ・収蔵品目録 I 受入台帳 1~8000番
- ・第26回特別展 縞布を愉しむ
- ・第11回企画展 幸福招来〜福の神に託された庶民の願い〜
- ・大宮の教育史調査報告書(II) <初等教育・勤労青年教育篇>近代大宮の生活と教育 上
- ・大宮の教育史調査概報(IV) 教科書関係資料目録
- ・北沢楽天が描いた動物たち

- ・第23回特別展 ガラスの器
 - ・大宮の歴史上の人物調査報告Ⅰ
 - ・大宮の教育史調査概報(Ⅱ) 大宮の石造物(Ⅰ)
 - ・第1回ミニ企画展 大宮の誌と風景
 - ・大宮市立博物館の博学連携
 - ・第17回特別展 江戸時代の庶民の旅 お伊勢参り
 - ・第16回特別展 会津高原たていわ
 - ・第28回特別展 「江戸名所図会」五十景
 - ・写真でみる大宮の昔と今
 - ・第14回企画展 私が持っている北沢楽天画伯
 - ・第22回特別展 ブリキのおもちゃ
 - ・第20回特別展 晴れの日 夜の嫁入
 - ・第9回特別展図録 凧 大空の絵画
 - ・第11回収蔵品展 竹の道具
 - ・第12回特別展 知られざる巨匠・永田二郎
大宮の生んだ近代画家 出品目録
 - ・縄文人の顔～土偶・土面から見た素顔～
 - ・さいたま市博物館研究紀要 第1・2集
 - ・第16回企画展 鳥・からす・カラス～神の鳥から都市の鳥へ～
 - ・第15回特別展 大宮の文化財
 - ・大宮の教育史調査報告書Ⅵ 明治期大宮の生活・教育・文化 下
 - ・大宮の教育史調査報告書Ⅰ 石造物に見る大宮の寺子屋
 - ・大宮の教育史調査報告書Ⅱ 近代大宮の生活と教育 中―生徒と教師が語る大正・昭和史―
 - ・大宮の教育史調査概報Ⅲ 大宮の石造物(2)―西部地域編―
 - ・絵馬 庶民の祈りとくらし 第11回特別展
 - ・浮世絵で愉しむ午歳の春 第15回企画展
 - ・あむ～多種多彩 魅惑のキャリングバッグ～
第27回特別展図録
- さいたま市立博物館
- ・さいたま市立浦和博物館

- ・博物館要覧
 - ・さいたま市誕生記念特別展 さいたま市の指定文化財～歴史を語る珠玉の名品～
 - ・THE A MUSEUM 第117～118号
- サトエ記念21世紀美術館
- ・平成15年度企画展 日本庭園と彫刻と上
- 戸田市立郷土博物館
- ・戸田市郷土博物館要覧 2004年度
 - ・第20回特別展 荒川第一調節池完成記念 彩湖
- 東松山市教育委員会
- ・第2集 上松本遺跡(第2次)
 - ・第24集 杉の木遺跡(第3次)
- 富士見市立資料館
- ・平成14年度 富士見市立資料館要覧
 - ・貝の環 市民学芸員3年間の記録集
- 富士見市立水子貝塚資料館
- ・平成16年度特別展 開園10周年記念 水子貝塚の6000+10年
- 宮代町郷土資料館
- ・平成16年度特別展わたしたちの学校～宮代の教育史～
- 宮代町教育委員会
- ・宮代町史ビジュアル版 水と緑の宮代
- 三芳町教育委員会
- ・新開遺跡―Tc区の調査―
 - ・町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ
 - ・平成16年度特別展 みよしの学校物語
- 毛呂山町歴史民俗資料館
- ・第14回特別展 毛呂山町合併50周年記念「鎌倉街道の世界―古道から探る中世の風景―」

<東京都>

- 学習院大学
- ・学芸員 第8号
- 学校法人 女子美術大学
- ・女子美 No.149

慶応義塾福澤研究センター

- ・慶応義塾福澤研究センター通信 創刊号
- 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室
- ・『宣教部日誌』にみる大正期の駒大生 {その2}
 - ・禅の傑僧・月舟宗胡墨跡展
- 渋沢資料館
- ・青淵 1月号
 - ・日米実業史競

東京家政学院 生活文化博物館

- ・日本人形の姿と形一節句飾りを絵解きする一文化環境研究所
 - ・(株)文化環境研究所文環研レポートNo.22
 - ・Cultivate 第23号
- 明治大学黒耀石研究センター
- ・黒耀石文化研究 第3号

<千葉県>

茂原市立美術館・郷土資料館

- ・平成16年度特別展 長生郡市の遺跡

<静岡県>

静岡市立登呂博物館

- ・第32回特別展 古代建物のまつり一階にみられる人々の祈り一

<長野県>

市立大町山岳博物館

- ・山と博物館 第49巻第10号

<愛知県>

一宮市博物館

- ・一宮市博物館だより 第35号

<富山県>

富山市教育委員会埋蔵文化財センター

- ・富山市埋蔵文化財調査報告132 北代西山Ⅱ遺跡・茶屋町遺跡発掘調査報告書

<三重県>

嬉野町教育委員会

- ・嬉野町文化財調査報告第18集 天白遺跡発掘調査概要
- ・嬉野町文化財調査報告第19集 川北船切遺跡発掘調査報告書
- ・嬉野町文化財調査報告22集 柏木遺跡発掘調査報告書
- ・島田北10号線埋蔵文化財報告 焼野遺跡 見行谷石切場
- ・嬉野町の文化財

<京都府>

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館館報 第7号

V. 資 料

(1) 第2回 企画展『南極、自然と人』— 南極観測の記録から— 解説目録

〔B5判、8頁〕

- ・ごあいさつ
- ・南極、自然と人
- ・南極大陸
- ・写真で見る「南極、自然と人」
- ・地図
- ・南極からの便り
- ・(表) 歴代の日本南極地域観測隊の隊長と副隊長

(2) 第2回 特別展『釈迦の故郷』解説目録

〔B5判、22頁〕

- ・ごあいさつ
- ・釈迦の故郷
- ・四大仏跡とカピラ城
- ・(表) 釈迦関連遺跡調査等年表
- ・アショーカ(阿育)王の石柱
- ・ティラウラコット遺跡
- ・ティラウラコット遺跡出土遺物
- ・ルンビニー遺跡
- ・(表) ティラウラコット遺跡調査の経過

立正大学博物館 第2回企画展

南極、自然と人

—南極観測の記録から—



期間：平成16年4月12日(月)
～5月11日(火)
場所：立正大学博物館

開館日：月・水・木・金・土
開館時間：10:00～16:00
休館日：火・日・祭日及び大学の休業日
入館料：無料

記念講演会
期日：5月8日(土)
会場：立正大学熊谷校舎1号館 1102教室
時間：13:00～15:00
演題
「南極に魅せられて半世紀」
吉田 榮夫
(前立正大学学長・国立極地研究所名誉教授)

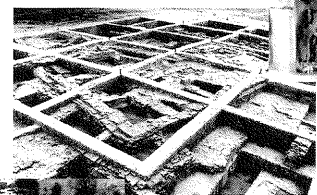
—お問い合わせ—
立正大学博物館
Tel:048-536-6150/Fax:048-536-6170
URL:http://www.ris.ac.jp/museum/
Email:museum@ris.ac.jp

—交通機関—
・東上線・長野新幹線、高崎線：熊谷駅下車
南口よりバスにて(立正大学行)で終点
・東武東上線：篠林公園駅下車
北口よりバスにて(立正大学行)で終点

立正大学博物館
協力：国立極地研究所・(財)日本極地研究振興会

第2回 企画展ポスター

釈迦の故郷





開館日：月・水・木・金・土
開館時間：10:00～16:00
休館日：火・日・祭日及び大学の休業日
入館料：無料

—お問い合わせ—
立正大学博物館
Tel:048-536-6150/Fax:048-536-6170
URL:http://www.ris.ac.jp/museum/
Email:museum@ris.ac.jp

立正大学博物館
後援：(財)全日本仏教会

第2回 特別展ポスター

立正大学博物館年報 3

(平成16〈2004〉年度)

平成17 (2005) 年3月31日 発行

編集・刊行 立正大学博物館

〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL. 048-536-6150 FAX. 048-536-6150

e-mail:museum@ris.ac.jp

<http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷 東ブリ)